

## 自律的な生き方のすゝめ -民間出身の行政マンとして奮闘中!-

長く在籍した大阪ガスで都市開発・まちづくりの仕事に従事し、「その経験を活かして、まちづくりを本業にしたい」と思い立ち、定年前に円満退職して都市計画コンサルタントとして独立しました。2年間の活動後、大阪市役所の局長公募に応募、運よく合格し、昨年4月に大阪市都市整備局長に就任しました。何かと話題の多い大阪市の真ん中で、これまでの経験をフル活用しながら「まちづくり」「住まいづくり」「公共建築づくり」の仕事に没頭しています。

《プロフィール》1958年生まれ。羽衣出身、神戸市在住。77年三国丘高校卒業。84年京都大学大学院建築学専攻修了後、大阪ガス(株)に入社。主に都市開発、社有地開発の業務に従事し、大阪ドーム、USJなどのプロジェクトに携わる。2000年頃より大阪都心部の御堂筋、三休橋筋や姫路まちなかでのまちづくり活動に公私両面で参画。16年に大阪ガスを円満退職し、姫路の建設コンサルタント社長を経て、まちづくりコンサルタント「ARC地域力研究所」を設立し活動。18年4月に公募により大阪市都市整備局長に就任し現在に至る。著書-「大阪のひきだしー都市再生フィールドノートー」「都市の魅力アップ」(共に共著)など。技術士(建設部門・都市及び地方計画)、1級建築士。

## 1. 大阪の企業に就職 1984年ー

- ・「大阪のために働きたい。そのためには大阪に対して発言力のある会社に就職すべき」との思いから、大阪から離れられない企業である大阪ガスに就職
- ・バブルの時代に、住宅・都市整備公団(現UR都市再生機構)と大阪ガスとの人事交流がスタートし、3年間公団へ出向。京阪神都市部での再開発・住宅開発を担当。→都市開発、まちづくりの面白さ、大切さを実感
- ・帰社後は、会社へ意思表示し、都市開発、まちづくり部門に長く在籍
- ・梅田北ヤード、ベイエリア開発、大阪ドーム、USJ[写真1]などの大規模開発に従事



写真1 USJ周辺(左上が旧大阪ガス北港製造所)

## 2. 都市開発から「まちづくり」へ 2000年ー

- ・阪神淡路大震災を神戸市東灘区で経験。インフラ施設の脆さを実感 →人の活動をベースにした「まちづくり」へシフト
- ・大阪都心部のさまざまなまちづくり活動に公私両面で参画
  - ①御堂筋まちづくりネットワーク：御堂筋沿道企業によるエリアマネジメント活動[写真2]
  - ②三休橋筋愛好会：周辺企業ワーカーによるボランティア活動。ガス燈通りを実現。[写真3]
  - ③大阪ええはがき研究会：大阪の埋もれた魅力を手づくり絵はがきの制作にて発信する活動[写真4]
  - ④都市大阪創生研究会：在阪企業と大阪市、学識者による、都市の魅力アップ活動[写真5]
  - ⑤日本都市計画学会：関西支部幹事として活動推進
  - ⑥都市環境デザイン会議：関西ブロック幹事、本部監査役として活動を推進
- \*2004-06 大阪大学大学院：工学研究科ビヅ研  
インフラ専攻招聘助教授
- \*2004-05 大阪市：都市再生本部シティーブローション担当課長



写真2 御堂筋まちづくりネットワークによる公開空地でのコンサート



写真3 三休橋筋・綿業会館前でのガス燈点灯式典



### 3. 姫路にはまる 2010年ー

- 突然の姫路転勤（姫路地区支配人）
- そのとき姫路は、姫路城の平成の改修工事で観光客激減、駅前広場の大リニューアルが進行中
- 大阪での経験を姫路で実践すべく、姫路市中心市街地活性化の様々な活動に参画 →大阪で10年かかったことが姫路では3年で実現!!
- ① よってくだん姫路：姫路観光コンパニオンサービスの魅力発掘プロジェクトチームでのまち歩きマップ制作
- ② 姫路駅前広場活用協議会：駅前広場利活用推進に資する各種活動
- ③ 姫路まちづくり喫茶：自律的まちづくり活動誘発を目指すまちづくりセミナーの毎月開催[写真6]

### 4. 定年後はまちづくりを本業に 2014年ー

- 大阪地区支配人として大阪でのまちづくりに復帰
- ① CITEさろん：在阪企業40社によるまちづくり提言活動と情報交流のための任意団体
- ② 大阪市中央区区政会議委員
- ③ 大阪市男女生き生き財団理事
- ④ (株)ATC社外取締役
- 定年（5年後）以降はまちづくりを本業として仕事をしたい →大学教授、コンサル再就職、コンサル設立など
- まずは博士号を取ろうと、大学に入学（大阪大学大学院）
- 57歳（定年前）に大阪ガスを円満退職

《そのときの周囲の反応は》

○主に大阪ガス社内

えっ、なんで？／大丈夫か？／心配や…／ようやるなあ…

○主に社外の知人

すばらしい！／がんばれ！／大企業にすぎりつかない生き方を応援するよ！

### 5. 姫路→大阪でのコンサルタント業 2016年ー

- 姫路の建設コンサルタント社長を1年間経験
- 2017年4月にまちづくりコンサルタント“ARC地域力研究所”を設立し活動
- ① キタ再発見の会：(公財)都市活力研究所によるまちづくりセミナーの企画運営をサポート
- ② 堂島地域シンボルロード検討会：地域の様々な主体による北新地のまちづくりをサポート[写真7]
- ③ 関大前通り景観まちづくり：関西大学による地域住民や商店主と連携したまちづくりをサポート

### 6. 大阪市の局長公募にチャレンジ 2017年

- 「大阪市の局長公募」で、今回は建築部局のトップである「都市整備局長」も対象であることを知る
- 大企業を退職し身軽な身分になり、再考した結果、「まちづくりを本業にしたいという私の希望に最



写真4 大阪ええはがき研究会による水都大阪作品



写真5 都市大阪創生研究会による社会実験“リバーカフ



写真6 ひめじまちづくり喫茶のゲストスピーカーの方々



写真7 北新地のみなさんとの検討会の様子



適かも？」→応募し、運よく合格

「新たな『公』の力を生み出す”ことを主張→ブレイング  
マネジャーとして” しかけ役” 調整役” 旗振り役”  
を担う

- 2018年4月1日付で大阪市都市整備局長に就任  
(兼業禁止のためコンサル業は休業)

### 7. 民間出身の行政マンとして 2018年ー

- 職員数：570人
- 守備範囲：住宅政策全般、市営住宅の建設・管理、市設建築物の建設・管理、土地区画整理事業、市街地再開発事業、都市魅力の向上など

#### 私の基本姿勢

- \*活動フィールドである「まち」「住まい」「公共建築」を再認識
- \*留意事項：積極的な情報発信／様々な主体との連携／知見を高める「場」の設置と自律的な参加・運営

#### 年度方針

##### ① 地域との連携による魅力と活気あふれるまちづくり

- \*都市・地域魅力の向上・発信[写真8] [写真11]
- \*市営住宅ストックを活用したまちづくり
- \*密集住宅市街地における防災性の向上
- \*土地利用の更新によるまちの活力の向上

##### ② 安全・安心に住み続けられる住まいづくり

- \*新婚・子育て世帯の市内居住への支援
- \*民間建築物の耐震化の促進
- \*安心居住の推進

##### ③ 持続可能な効率的な公共建築づくり

- \*ファシリティマネジメントの推進

#### 民間出身者としての活動

局として蓄積してきたノウハウを活かすことを基本に、新しい視点も加えながら活動を展開中

##### ① 昨年秋、私の想いを盛り込んだH31年度都市整備局運営方針を作成 →「都市魅力の創出」の取り組みを充実／仕事を進める上で重視することに「自律的活動」「連携」「場づくり」を明記

##### ② 今年1月に560名の局職員全員に「H31年度運営方針と私の想い」を直接解説 →市の研修センターで100人規模の講義（90分バージョン）を5回開催。[写真9]

##### ③ その時に予告した「アフターファイブの自主勉強会」とせいで「サロンの」を立ち上げ→ 自発的に手を挙げた約20名の若手職員と「局事業全体のPR冊子」を作成[写真10]

##### ④ 出来上がった冊子を使って自ら社外発信を画策

##### ⑤ おせっかい的活動の推奨、評価の仕組みとして「都市整備局長激励賞」を創設



写真8 ボランティアが支えるイケフェス大阪



写真9 局職員全員へ私の想いを直接伝達



写真10 アフターファイブの自主勉強会で作成したPR冊子



写真11 ★★10/26 開催決定！局長とめぐる三休橋筋★★

以上

## 《お薦めの2冊》

- ・リンダグラットンというイギリスの経営学者の書いた「ワークシフト」と「ライフシフト」の2冊

## 『ワークシフト』

- ・2010年ごろに2025年の未来を精密に、多面的に、具体的に描き上げたもの
- ・働き方の未来を変える要因：
  - 技術の進展
  - グローバル化の進展
  - 人口構成の変化と長寿化
  - 社会の変化
  - エネルギー・環境問題の深刻化
- ・それらはいろんなところで言及されているが、「その状況を踏まえてこうする」という明確な指針はないのでは？
- ・本書では、孤独で貧しい未来を迎えないために、私たちが働き方をどう「シフト（転換）」させるべきかを提案
- ・第1のシフト：一つの技能で満足せず高度な専門技能を磨き、自分を差別化するために「自分ブランド」を築くこと
- ・第2のシフト：人的ネットワークをはぐくむこと
  - ①難しい課題に取り組むうえで頼りになる少人数の盟友グループ
  - ②イノベーションの源泉となるバラエティに富んだ大勢の知り合いのネットワーク
  - ③ストレスを和らげるための打算のない友人関係
- ・第3のシフト：大量消費主義を脱却し、家庭や趣味、社会貢献などの面で充実した創造的経験をすることを重んじる生き方に転換すること
- ・これらのシフトを実践するためには、自分の道を主体的に選択することが重要



## 『ライフシフト -100年時代の人生戦略-』

- ・長寿社会と言われているが、どの程度長寿なのか
  - 現在先進国で生まれる子供の50%以上が105才以上生きる
  - 私は60才ですが、90才以上生きる確率が50%以上
- ・100年生きることを前提とした人生設計が必要になる
- ・現在の人生は、教育、仕事、引退（老後）の3ステージ制
- ・この先、マルチステージ制の人生へと移行する
- ・旧来の「仕事ステージ」がマルチステージになる
- ・マルチステージの人生では3種類のステージが追加される
  - ①エクスプローラー：人生の意味や自分探し、世界を知る期間
  - ②インディペンデント・プロデューサー：自由に働く「個人事業主」的な働き方をする期間
  - ③ポートフォリオ・ワーカー：企業で働きながら他の能力を磨く時期。「仕事+副業」的な働き方
- ・教育と仕事のステージと合わせた「5つのステージ」をいったりきたりする人生になる
- ・そしてマルチステージの人生を生きるには、お金という資産以外に、3つの「無形の資産」（①仕事の能力、②健康、③人脈）を作ることが重要
- ・そこで必要となるのは、画一的な生き方にとらわれず、生涯「変身」を続ける覚悟
- ・自分のアイデンティティを主体的に築きながら、人生をどのように計画するかが重要

